

史跡しせき

福澤諭吉生誕の地ふくざわゆきちせいだんのち

(所在地) 福島二丁目一 朝日放送社屋前



初代の諭吉生誕碑は、昭和四年（一九二九）、大阪大学附属病院敷地内に建てられたが、戦争中になくなり、昭和二九年（一九五四）、現在の中央部分の碑が建てられた。そして生誕百五十年を期して『学問のすすめ』の有名な一節「天ハ・・・」の碑が追加された。その後病院は移転し、跡地には朝日放送が新社屋を建設し、二〇〇七年一月二〇日に復元の式典があった。また、すぐ西側のなにもわ筋に面する角に地図を含めた案内板が新たに設置された。

【碑文 正面 上】

福澤諭吉生誕地

【碑文 正面下】

幕末明治の大教育家福澤諭吉先生ここに生る。時に天保五年十二月十二日（西暦一八三五年一月十日）、こゝは旧豊前中津藩倉屋敷の長屋跡である。先生の父百助は一面に於いて、経学者、詩文家であったが、然し、理財の道に精通した循吏であった。金穀會計の俗役に奔命して其生涯を終った人である。彼は妻お順が、大きな、痩せて骨太な五番目の子を産んだ時「これはよい子だ、大きくなったら寺へ遣って坊主にする」と語ったと伝へられてゐる。封建門閥の世に下級士族が其子をして名を成さしめる道はこれを仏門に入らしめる以外にはなかったのであらう。当時を於いて、この子が後年、西洋文明東道の主人となり、封建的觀念形態の打破に努力するに至る将来を誰が予見し得たであらうか。

昭和二十九年一月 慶応義塾社中建之

題字 小泉信三

撰文 高橋誠一郎、

書 西川 寧

【碑文 右】

(正面) 豊前国中津藩蔵屋舗之跡 大阪堂島

玉江橋北詰

(右側面) 従是中津迄 陸路百三十五里

海路百三十里

(左側面) 従是江戸迄 陸路百三十三里

海路二百四十八里

(裏面) 昭和五十八年四月吉祥日建之

大分県中津市

中津市長八並操五郎謹書

【碑文 左】

(正面) 天ハ人ノ上ニ

人ヲ造ラズ

人ノ下ニ

人ヲ造ラズ

(裏面)

昭和六十年一月十日

福澤諭吉生誕地顕彰地建之

慶応義塾長 石川忠雄書

【碑文 案内板】 大阪中之島久留米藩蔵屋敷絵図

第二図 玉江橋

<図>

<図>

国宝大阪全図 (部分)

大阪市指定有形文化財 合名会社神宗所蔵 写真提供 大阪歴史博物館

江戸時代初期の中之島周辺は、葦が生い茂る低湿地でした。それが豪商・河村瑞軒の治水工事によって、水運に有利な一等地となり、全国諸藩の蔵屋敷が建ち並ぶようになりました。大阪が「水の都」「天下の台所」呼ばれた時代です。

新社屋の敷地には中津藩(大分)、延岡藩(宮崎)、壬生藩(栃木)などの蔵屋敷があり、発掘調査で当時の建物跡や茶碗・人形などの遺物が見つっています。

1834年には中津藩の蔵屋敷で福沢諭吉が生まれました。明治・大正時代には官庁や学校・病院(のち大阪大学医学部付属病院)の用地として市民に親しまれました。

その後、2008年に朝日放送が移転して参りました。

寄贈 朝日新聞社



赤○が中津藩